



美術館は村野藤吾の設計で、小山敬三の作品と調和し、街にとけこむように作られた芸術性の高い建築です



落ち着いた雰囲気での展示室では、代表作の常設展と企画展示がご覧になれます



展望室からは千曲川が見下ろせ、晴れた日は北アルプスが望めます

### 美術館入館料

一般 200円 小中学生 100円

### 懐古園共通券※

(個人) 一般 500円 小中学生 200円

(団体 20名以上) 一般 400円 小中学生 150円

※ 懐古園内の他施設もご覧になれます

### 開館時間

4～11月 9:00～17:00

12～3月 9:00～16:00

### 休館日

3月中旬～11月 無休

12月～3月中旬 水曜

年末年始 (12月29日～1月3日)

### アクセス

#### 鉄道

しなの鉄道・JR小海線 小諸駅から徒歩15分

#### 自動車

上信越道小諸インターから「懐古園」方面10分

長野県小諸市丁 221 (懐古園内)

TEL/FAX 0267(22)3428



《浅間山黎明》 1959年作

小諸市立

# 小山敬三美術館

Koyama Keizo Museum of Art

小山敬三は、世界の絵画を変えた印象派の発祥地フランスで絵を学びましたが、その新しい動きの元にある西洋芸術の伝統に目を向けました。帰国後は、子供の頃から親しんでいた日本の芸術の精神と、西洋で学んだ技術によって、新しい日本の洋画を築いた先駆者の一人となりました

小山は故郷に自分の作品と美術館を寄付することが若い頃からの夢でした。建築家村野藤吾に設計を依頼し、1975年に完成したのが、絵画、建物、眺望の集合美を備えた小山敬三美術館です

小山君の描く橋は安心して渡れます。道は不安なく歩けます。その家には十分に住めます

安井曾太郎

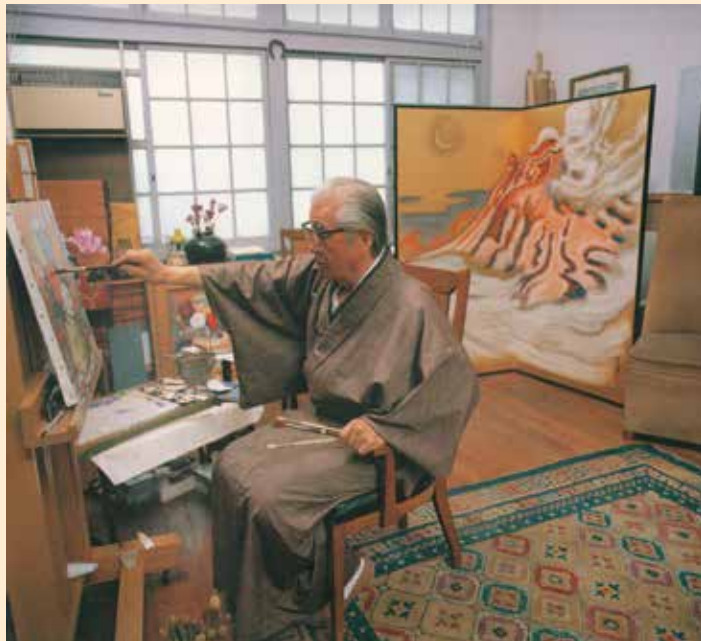
直裁なデッサン、重厚な筆致、寡黙な色彩、而して盤石の如く頑丈なマチエール

山本鼎

小山はヨーロッパに教えを求めましたが、いかなる規矩にもはまらず、またいかなるはかないエキゾティズムの成功からも逃れ得ている。過去の重荷と現代の誘惑の間にあって分裂することなく、力強く全体的な統一を保ち得ている

1927年パリで開かれた個展を評して  
美術評論家 エミール・コンドルワイエ

アトリエで描く小山敬三



アルカンタラの橋

1926年制作

81 x 65 cm 油彩

スペインを訪れた小山敬三はその風光に魅了されます。トレドの石橋を描いた初期の代表作



初夏の白鷺城

1974年制作

99 x 79 cm 油彩

西洋の技術で日本の風景を描く主題として小山敬三が選んだのが白鷺城(姫路城)でした



ブルーズ・ド・ブルガリイ

1948年制作

80 x 65 cm 油彩

小山敬三は優れた人物画を多く残しています。ブルガリアのブラウスという題で、モデルは息女の蓉子さん

## 小山敬三略年譜

- 1897 長野県小諸町(現小諸市)の旧家に生まれる
- 1910 上田中学に入学、水彩画を描く
- 1915 慶應義塾大学予科に入学
- 1916 画家への思いを断ちがたく慶應を中退  
川端画学校で藤島武二に絵を学ぶ
- 1917 父の勧めで同郷の作家島崎藤村を訪ね、フランス留学を勧められる
- 1920~1928 フランス留学  
シャルル・ゲランの画学校で西洋絵画を学ぶ  
サロン・ドートヌヌに入選、実力を認められる  
マリー・ルイズと結婚  
スペインでエル・グレコの絵に感銘を受け、トレドの風景を描く
- 1929 神奈川県茅ヶ崎市にアトリエ兼住居を建てる
- 1934 中国を取材旅行 二科会会員となる
- 1936 有島生馬、石井柏亭、安井曾太郎ら7名と二科会を退会し、一水会を結成
- 1937~1938 再度渡仏
- 1944 戦火をさけて小諸の御牧ヶ原に疎開
- 1946 長野県軽井沢町に山荘を入手し、浅間山を描く
- 1959 白鷺城シリーズで日本芸術院賞を受賞
- 1960 日本芸術院会員に任命される  
日展理事となる
- 1970 文化功労者に列せられる
- 1971 小諸市名誉市民の称号を贈られる
- 1975 小諸市に自らの作品と建物を寄付した小諸市立小山敬三美術館が開館  
文化勲章を受賞
- 1976 茅ヶ崎市名誉市民の称号を贈られる
- 1982 新高輪プリンスホテルの壁画《紅浅間》完成
- 1985 後進育成のため私財を投じて「財団法人小山敬三美術振興財団」を設立
- 1987 89歳で死去

小山敬三は生涯を通して日展、一水会展などを中心に270以上の公展に出品し、30回以上の個展を開きました